し、定住人口の増加に努めます。

また、来年度から、三世代以上が同居する住宅を新築・増改築する費用を金融機関から借入した場合、利息の三年分を助成する、住宅建築支援事業も実施します。

そのほか、田舎体験を企画する事業者に対する助成なども創設し、積極的な取り組みに期待をしています。

産業振興

日本の農政、特に米政策は昨年末に大きく見直され、認定農業者や農業法人、参入企業への農地集積の拡大、生産コスト縮減などを目指した、新たな農業・農村政策が明らかにされました。

このような状況の中、今後も奥出雲ブランド農産物の生産販売については、農商工の連携による高付加価値化、六次産業化を推進していく考えです。

また、平成二十六年産の水稲生産調整については、国内消費の落ち込みや政府備蓄用米持ち越し在庫の急増により、国全体の作付面積が激減することとなりました。

現在の本町への平成二十六年産の水稲配分面積は、昨年の作付実績と比較して五十㌶近く減少する見込みですが、今後も、ＪＡ間調整等による追加作付配分の確保に努めます。

こうした中、二月には「仁多米振興大会」に併せ「奥出雲仁多米株式会社十五周年記念大会」を盛大に開催し、記念講演などを実施しました。会場では、食味向上と安全・安心な環境と調和した美味しい米づくりの推進など、更なる仁多米ブランドの飛躍に向けて、農家、関係機関の皆さんの意識高揚が図られました。

引き続き、仁多米コシヒカリが「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」や「日本穀物検定協会食味ランキング」で高い評価が得られるよう、県、ＪＡ、生産者と連携し、食味値の向上に取り組みます。

畜産振興

昨年八月には、奥出雲仁多牛の名声復活を目指し、次期開催の第十一回全国和牛能力共進会（宮城全共）に向けて、奥出雲町出品対策協議会を設立しました。

今後は、前回の長崎全共の検証を踏まえ、関係機関が連携し、早期の系統改良、優良雌牛の保留、能力の高い候補牛の選抜や生産基盤の強化などの取り組みを進めます。

また、ＪＡ雲南の奥出雲和牛肥育事業の規模縮小への対策は、奥出雲和牛の「地域一貫体制」を再構築するため、ＪＡ雲南と雲南市、飯南町、奥出雲町で広域的な支援を行うこととなりました。

現在休止中の横田肥育センターの一部を改修し、奥出雲町農業公社が、来年度から五年間の広域支援を受け、平成三十年には繁殖雌牛百頭、子牛八十頭の経営規模を目指します。

特産振興

（有）奥出雲椎茸が生産販売する「菌床椎茸」は、徹底した品質管理、懸命の経営努力により、市場・消費者から高く評価されています。

しかしながら、市場価格の低迷は一向に改善の兆しがなく、依然として厳しい経営状況にあります。

来年度も、資産の町有化等により経営の改善を促し、「奥出雲しいたけ」のブランド堅持と地域雇用の確保に努める考えです。

国営開発農地の活用

近年、国営開発農地では、地元企業が契約栽培でエゴマ栽培に取り組んでおりますが、鳥獣被害が少なく収益性も高いことから、年々栽培面積が増加しています。

来年度の栽培面積は、二㌶増の二十㌶と県内最大規模の産地となりますが、将来的には二十三㌶の栽培を計画しており、生産基盤の整備、商品開発支援などに努めます。

また、耕作放棄地の再生整備補助金を活用し、農地の再生・利用促進、新規農業参入者への農地利用集積など、今後も継続的に事業推進していく考えです。

▲栽培を進めているエゴマ

有害鳥獣対策

イノシシの捕獲頭数は近年大幅に減少し、農作物の被害報告も少ない状況でしたが、今年度は三年ぶりに増加傾向となっています。

引き続き、有害鳥獣の捕獲駆除対策や電気防護柵の設置など被害防止対策を講じます。

林業の振興

引き続き「緑豊かな森づくり」と「森林資源を活かした循環型社会」を目指し、町行分収造林並びに公社造林事業を推進するとともに、荒廃林の再生整備及び森林病害虫対策を実施します。

また、木材の搬出コストを低減させるための高性能林業機械導入助成事業や、森林施業の効率化を図るための森林作業道の整備など、林業活性化に積極的に取り組みます。

また、山林地籍調査事業については、実施体制の強化及び適正な業務量の予算化を図り、継続的且つ積極的な事業の推進に努めます。

観光振興

観光振興は、本町の重要な

政策課題です。

昨年、出雲大社では六十年に一度の「平成の大遷宮」により、予想を上回る観光客の方々が島根県を訪れ、本町においても、玉峰山荘を中心に来訪客が増えたと聞いています。

その効果が来年度も継続するように、観光客の誘客に向けた体制の整備、おもてなしの仕組みづくりを、観光施設や関係団体と連携を図りながら、更に充実させたいと考えます。

来年度は、吊り橋と遊歩道が完成した鬼の舌震を中心に、佐白温泉、亀嵩温泉、斐乃上温泉の「奥出雲美肌温泉郷」、おろちループ周辺とトロッコ列車を活用した誘客を進めます。

▲昨年完成した「舌震の〝恋〟吊橋」

そのほか、錦織良成監督による「たたら」をテーマにした映画「たたら侍」の撮影が、県内で行われる予定です。このため、県と「たたら」に関係する市町が連携し、映画製作に協力する予定で、本町が誇る素晴らしい「たたら」の文化を最大限にＰＲし、全国へ情報発信したいと考えています。

商工業振興

商工業の振興のため、来年度も引き続き、商工会による経営改善普及事業や地域振興巡回員設置事業等を実施する考えです。

また、飲食店・商店への改修改造の費用の一部を助成する、町独自の商業活性化重点支援事業、空き店舗や提案による事業を支援する地域商業活性化支援事業を継続します。

子育て支援

安心して子どもを産み、育てることのできる環境づくりは最重要課題であり、引き続き、幼児園の整備、多子世帯の児童・生徒の医療費無料化や保育料の軽減、予防接種の助成、出産祝金の支給などを行います。

なお、四月の亀嵩幼児園の開園により、町内の幼児園は七園となりますが、来年度は、三沢幼稚園と三成児童館の改修を行い、町内全地区の幼児園化に向けて取り組みます。

また、昨年十月には、子どもの健やかな成長のための環境づくりを検討する「奥出雲町子ども・子育て会議」を設置しました。

今後は、ニーズ調査を基に地域住民の声を反映させ、事業計画の策定や条例の制定を行い、より充実した子育て支援に努めます。

子どもたちの健やかな成長を支援します

医療の充実

町立奥出雲病院では、平成二十二年四月に常勤医師が五名体制にまで減りましたが、その後、小児科医師、内科医師、整形外科医師の着任により、現在、常勤医師は八名体制となっています。

しかしながら、本年三月末日に二名の常勤医師が定年退職を迎えられることから、今後、救急医療体制などへの影響が懸念されます。

引き続き、島根大学医学部等への協力要請はもとより、住民参加の「奥出雲町地域医療確保推進協議会」の活用、地元出身医師への直接アプローチなどにより、地域の中核病院としての診療体制の維持・整備に努めます。

医療機器の更新や施設設備の経年劣化による修繕費の増加等厳しい病院経営の中、企業会計基準の見直しに伴い、財務諸表の数値も厳しいものとなることが予測されます。

このような状況ではありますが、一昨年八月には院内保育所を、昨年十二月には一戸建ての医師住宅を整備しました。

更に、今年度は電子カルテシステムを更新して業務の効率化を図っており、勤務環境の整備・充実による医療従事者の確保対策が推進できたと考えています。

引き続き、医療環境の整備と医療スタッフの確保に努め、健全経営に努めたいと考えています。

▲整備された医師住宅

福祉の充実

いつまでも安心して生活できる町を目指して、引き続き、交通サポート事業、助け合い除雪、買い物支援体制などの「高齢者生活支援事業」に積極的に取り組みます。

来年度は、さらに住民参加による地域づくりを進めるため、新たに地域福祉計画を策定し、誰もが安心して支え合って生活していける地域福祉の充実を図ります。

なお、テレビ電話を活用し